



「ルミリーフ」は葉へのダメージを最小限に抑える特殊なレーザーで文字やイラストを描き、蛍光剤を流し入れて加工。触っても水をかけても落ちることがないので、美しさが長く楽しめる。

経営者の部会があり、ビジネスはもちろろん、さまざまな情報交換を行う交流の場となっています。アドバイスをいただいたり、ときには人を紹介してもらえたりするのは、とても貴重なつながりだと思っています。大学や企業との連携をお考えの経営者の方々は、大学が主催するフェアや、仙台商工会議所さんの交流会などの集まりに参加してみることから始めてみてはいかがでしょうか。

私どもも、自社だけの人材、資金だけで事業の幅を広げることが難しくさを感じることも多くあります。他社と連携し、補充し合うことで、仕事を受けやすくなるということは確実にあると思いますので、このような機会を通じて、仲間づくりを続けていきたいと思っています。

「ルミリーフ」は、御社が独自に開発した「ルミリーフ」が話題です。弊社はレーザーや光が得意分野ですので、その技術を使い、「ルミリーフ」という商品を開発しました。これは、胡蝶蘭の肉厚な葉にメッセージを彫り、鉢に取り付けたブラックライトを点滅させると、それに反応して文字が光るというものです。葉のカーブの具合を見ながら彫らなければならぬので、機械で量産することができない点が課題ですが、目新しさや美しさで評判も上々。テレビ番組で紹介されたことで、おかげさまで注文も伸びています。

このほか、スマートフォンのアプリ開発など、これまで培ってきた技術をもとに、どんな新しいことができるかを模索しています。今後、世の中のニーズをしっかりと調査し、「開発なくして、成長なし」という姿勢を忘れず取り組んでいきたいと思っています。

今後の抱負を聞かせてください。海外市場の開拓がこれからの課題です。現在、「ケミルミ」は海外へも販売していますが、より市場を広げるための手法を模索していきたいと思っています。

【概要】 東北電子産業株式会社

代表者：代表取締役会長 佐伯 昭雄
代表取締役社長 山田 理恵
開業日：昭和43年4月1日
事業内容：電子応用機器、各種産業用電子計測システム、レーザー制御機器をはじめとする理化学機器などの開発・製造・販売・輸出入業務を通して、実績ある技術力を礎に、新たな分野を切り開く研究開発型企業です。
所在地：仙台市太白区向山2-14-1
TEL：022-797-1617 (代)
ホームページ：http://www.tei-c.com



やがて生まれ来る子供たちのために。

宇宙のオアシス『地球』。ただひとつの、この青い星を守って行かなくてはなりません。
大切な人のために、そしてやがて生まれ来る子供たちのために。
私たちは、よりよい環境をめざし、考えつづけます。

AOBA 青葉環境保全

本社/仙台市若林区蒲町19-1 電話(022)286-3161(代)

クローズアップインタビュー

人との出会いから たくさんの刺激を受け、 世の中に必要とされるものを 開発していきます。



東北電子産業株式会社
代表取締役社長

やま だ り え
山田 理恵 さん

プロフィール

昭和37年3月2日横浜市生まれ。血液型AB型。宮城県第二女子高等学校卒業後、東北大学農学部食糧化学科に入学。大学卒業後、日本分光株に入社。昭和62年から新技術事業団(現JST)において研究員として活躍。平成3年4月、東北電子産業株に入社。12年3月、農学博士号を取得し、20年7月より現職。「『不易流行』という言葉がいつも心にあります。時代が変わっても変えないものと、変えていかなければならないものとを意識していきたいですね」と話す。愛犬との散歩が心安らぐひととき。

大学との連携で 主力商品を開発

「事業内容を教えてください。」
弊社は、主に分析機器や理化学機器の製造・販売を行う、ものづくりの会社です。得意分野はレーザー関連機器や光関連の分析機器で、部品づくりから自社開発製品まで手がけています。特に、私どもが開発し、商品化した極微弱発光検出測定装置「ケミルミネックスアナライザー」(以下、ケミルミ)は、企業や大学の研究所などで使っていただいています。

「ケミルミ」とは、どのような装置ですか。また開発までの経緯をお聞かせください。

この世に存在するすべての物質は、少しずつ酸化して、表面に酸化物が蓄積します。その酸化物が壊れて小さな光を発するんです。この、蛍の光の1万分の1という弱い光を捉える測定器が「ケミルミ」です。この発光する現象から、物質が酸化して劣化するスピードやメカニズムが分かるので、プラスチック製品をはじめ、化粧品や薬品、食品などの酸化劣化測定や品質管理に活用していただいています。現在、民間の研究などに購入いただくことが多く、日本企業の品質管理の一翼を担っているものと自負しています。

弊社は創業から来年で50年になります。電機メーカーの研究員として東京

で仕事をしていた父が、実家のある仙台に戻って弊社を設立し、母校である東北大学の先生に依頼されてつくったのがこの「ケミルミ」です。もう35年ほど前のことです。現会長である父のモットーは「開発なくして、成長なし」で、中小企業であっても、研究開発を続けることで次に進んでいこうという姿勢を大切に、今日までまいりました。これからも、この理念を大切にしながら、事業を続けてまいります。

「連携」で補充し合う、 仕事を受けやすく

「他企業との連携についての考えをお聞かせください。」

例えば研究開発補助金をいただくとか、海外の展示会に出展するといった場合に、何社か一緒に申請する場合があります。一昨年、地元企業4社で申請し、海外の展示会に出展したことがありました。全く異なる技術の企業同士でしたが、お客さまが共通でしたので、連携することができたわけです。今後は、一緒に海外に行ける企業を増やすことができれば、もっとおもしろい展開ができるのではないかと考えています。

「連携のメリットを、どのような点に感じていますか。」

いま、みやぎ工業会の中に「いろはの会」という、ものづくり企業の女性